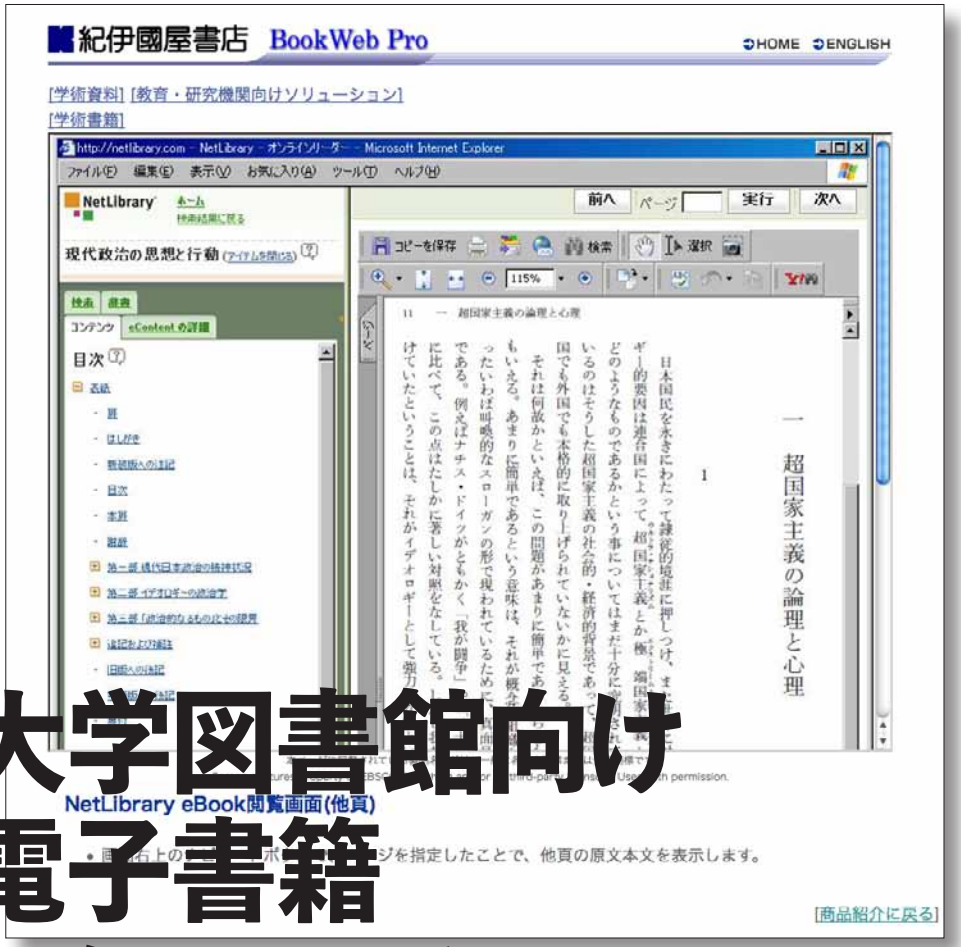
NetLibraryと千代田Web図書館

電子図書館



NetLibrary eBook閲覧画面(他頁)

大学図書館向け電子書籍配信サービスの国内契約数は220

図書館契約型の電子書籍配信サービスを行なう、
アメリカのNetLibrary。
紀伊國屋書店がその日本代理店となり、
和書の配信を始めたのが、2007年。
千代田Web図書館とほぼ同時期のスタートだった。
扱う書籍は学術書、配信先は、おもに大学図書館。
開始からほぼ四年、日本のNetLibraryのサービスは、
どういう状況をむかえているのか。
契約機関数、コンテンツ数などの現状を
紀伊國屋書店の担当者、新田英直さんに話を聞いた。
（このインタビューは2011年6月30日に行ないました）

学術書に特化した図書館契約型の電子書籍配信サービス

沢辺●NetLibraryは凸版印刷さんとやっていらっしゃるんでしたっけ？

新田●はい。テキストデータ作成は、凸版印刷さんとやっています。

沢辺●大日本など、丸善CHIホールディングスがやっている同じようなサービスってあるんですか？

新田●それがiNEO（アイネオ）さんを使ったサービス、電子図書館システムですね。

沢辺●なるほど。NetLibraryは電子図書館と考えていいんですか？

新田●いえ、NetLibraryは電子図書館ではなくて、学術書に特化した、図書館契約型の電子書籍配信サービスです。

沢辺●電子図書館といわれていやだというのは……。

新田●私どもが理解してますのは、電子図書館というのは、郷土資料をデジタル化して配信するとか、ご自身のところの資料をデジタル化して配信することを含めて、というものだと思っています。

沢辺●それはおっしゃる通りですけどね。

新田●私どもの場合は、出版社さんから許諾された電子コンテンツをおあずかりして販売することに特化しています。それを図書館契約でやっている。

沢辺●図書館以外は契約はないんですか？

新田●契約機関はいま二二〇をちょっと超えたくらいなんですが、二二〇のうち、二

NetLibrary◎学術書に特化した、図書館契約型の電子書籍配信サービス。1998年にアメリカで創設され、世界50ヵ国、16,000図書館にサービスを提供している、世界最大級のeBook（和書・洋書）コレクションを提供するプロバイダー。
紀伊國屋書店が日本代理店をスタートさせたのが、2002年。2007年10月からは、和書コンテンツの本格提供を開始している。
http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/netlibrary/

新田英直○にったひでなお
1967年3月、東京生まれ。eコマース事業本部電子書籍事業部部長。1990年4月紀伊國屋書店入社。1990年から2008年まで外商営業、09年から図書館向け電子書籍配信サービスNetLibrary業務に携わる。11年からは、個人向け電子書籍ストアKinoppyにも並行して携わっている。

○○が大学図書館です。残りの一〇が、企業の図書室、一〇が研究機構。公共図書館は山口県の下関市立中央図書館さんと岐阜県の関市図書館さんの二つです。

沢辺●iNEOとちょっと違うのは、あそこは一般書もやろうとしてますよね。

新田●はい。私どもも一般書は取り込みたいのですが、現状で出版社さんから販売許諾を得ることは難しいと思っています。もともと図書館さんに販売していた出版社さんのコンテンツを電子におきかえて販売しているのがうちの特徴だと思います。

沢辺●タイトルはどれくらいあるんですか？

新田●和書が三千、洋書が三十万です。

沢辺●海外ものがやたら多いですが。

新田●NetLibraryはそもそも洋書の電子書籍の配信サービスなんです。サーバがアメリカにあって、紀伊國屋書店はその日本代理店ということで洋書の販売をはじめました。それが二〇〇二年です。そ

●紀伊國屋書店NetLibraryデータ

Q　契約数は?
A　2011年6月現在、約220機関。そのうち、大学図書館が約200。10が企業内図書館、10が研究機関の図書館。公立図書館は、山口県下関市立中央図書館と岐阜県関市図書館の2館。

Q　和書のタイトル数は?
A　2011年7月現在で、約3,000タイトル。

Q　図書館が支払う料金は?
A　電子書籍購入費のみ。サーバー使用料年間維持費など一切かからない。

Q　図書館があらたにシステムを導入する必要はない?
A　ない。サーバーはアメリカのNetLibraryにあり、そこに認証IDでアクセスする形をとる。

Q　電子書籍1タイトルの金額は?
A　平均して約1万2000円。

Q　購入した電子書籍は同時に何冊までアクセスできる?
A　1タイトル1人のアクセス。誰かが使っていれば、ほかの人は使えないという紙の本と同じ。

Q　出版社との取引条件は?
A　出版社がデータを作った場合は、5対5。データをNetLibrary（紀伊國屋書店）が作り、出版社は著作権処理だけをやってもらう場合は、8対2（出版社）。